

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都港区麻布台一丁目3-1

為替週間展望＝ドル円はレンジ相場が継続か

[10月12日からの1週間の展望]

週間高低（カッコ内は日）				10月5日～10月9日	
	始 値	高 値	安 値	終 値	前週比
ドル・円	157.73	158.51(7)	157.44(5)	158.22	+0.37
ユーロ・ドル	1.1257	1.1277(6)	1.1161(5)	1.1228	-0.0027
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終 値		前週末比		
日経平均株価	69,030.92	+721.46		日本10年債利回り	3.022 -0.071
ダウ平均株価	51,231.64	+54.68		米10年債利回り	5.227 -0.044
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 13日 独9月消費者物価指数確報値
米9月中古住宅販売件数
- 14日 中国9月消費者物価指数、中国9月生産者物価指数
中国9月貿易収支
米9月消費者物価指数
米地区連銀経済報告（ページブック）
- 15日 日本8月機械受注
豪9月雇用統計
小枝日銀審議委員講演
日本8月鉱工業生産指数確報値
英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支
スイス9月生産者輸入価格
ユーロ圏8月鉱工業生産指数
米9月小売売上高、米9月生産者物価指数
米新規失業保険申請件数、米10月フィラデルフィア連銀景況指数
カナダ8月製造業出荷、カナダ8月卸売売上高
※20カ国・地域（G20）財務相・中央銀行総裁会議
- 16日 全国信用組合大会で内田日銀副総裁があいさつ
（植田総裁あいさつの代読）
ユーロ圏8月貿易収支、ユーロ圏9月消費者物価指数確報値
米9月輸入価格指数
米9月鉱工業生産・設備稼働率
米8月対米証券投資
ウォッシュFRB議長、IMFのゲオルギエフ専務理事と対談

【前回のレビュー】原油高によるインフレ懸念や米国経済の堅調さから、ドルは底堅い動きが見込まれる。一方で、日銀の利上げ継続への積極的な姿勢が見られず、円売り圧力が根強いとみられる。こうした中、ドル円は上値を追う展開が続くと予想されるが、160円が視野に入ると介入警戒感から上値を抑えられやすいとした。

【ドル円は狭いレンジでのみみ合い続く】

10月5日から9日にかけては、おおむね157円台半ばから158円台半ばでの推移となった。原油価格の高止まりを受けて米長期金利が上昇基調にあり、ドルの支援材料となっている。

5日には中東情勢の不透明感の長期化による原油高や米債利回りの上昇を受けたドル高なども支えとなっている。一方で、日米通貨当局の円安けん制姿勢などが上値の重し

となっている。159円台に乗せるようだと介入の可能性が高いとの見方が、上値追いに慎重な姿勢につながった。

6日にはドル円は158円台前半を中心に落ち着いた動きとなった。米債利回りの高止まりもあってドル高・円安の流れが継続する一方、日米通貨当局の円安けん制姿勢への警戒感から上値を抑えられた。

7日のドル円は東京市場で158.51円まで上値を伸ばしたが、その後157円台をつけるなど、上値の重い動きとなった。日米金利差を狙ったドル買い円売りや、原油高に伴うドル高を受けて堅調な地合いが見られたが、NY市場に入って米10年債の入札が好調となったことなどから米長期債利回りが低下。米10年債利回りが5.36%台から5.26%台まで低下する中でドル売りとなった。

7日（日本時間8日午前3時）に発表された、9月15～16日開催の米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨では、19人の委員全員が利上げ決定を支持していたことが明らかとなった。多くの委員は、インフレ圧力が一段と強まるリスクに備えるため利上げを支持したとしている。大半の参加者は、年末までにもう一段引き上げることが適切になる可能性が高いとの見方を示した。ただ、市場の反応は限定的にとどまった。

8日は午前中に157円台半ばまで下落した。下げが一服すると、米10年債利回りの上昇やトランプ米大統領が中間選挙前にイランを攻撃するとの報道などを受けてドル円は158円台前半まで上昇した。その後、トランプ米大統領の「米中間選挙前にイランを攻撃することはない」との発言が伝わり、米10年債利回りが低下した。さらにNY市場で実施された米30年債の入札で好調な需要が示されたことで、利回りが一段と低下した。これを受けて、ドル円は157.50円近辺まで下落した。ただ、その後は158円近辺まで戻りを見せている。

【米小売売上高や米物価指数に注目】

10月12日～10月16日の週に予定される日米の経済指標やイベントとしては、13日の米9月中古住宅販売件数、14日の米9月消費者物価指数（CPI）、15日の日本8月機械受注、日本8月鉱工業生産指数確報値、米9月小売売上高、米9月生産者物価指数（PPI）、米新規失業保険申請件数、米10月フィラデルフィア連銀景況指数、16日の米9月輸入物価指数、米9月鉱工業生産・設備稼働率、米8月対米証券投資などがある。

主な経済指標の事前予想と前回は次の通り。14日の米9月消費者物価指数は、前月比では総合が+0.6%（前回+0.4%）、コアは+0.2%（前回+0.3%）と予想されている。一方で、前年比では総合が+3.6%（前回+3.4%）、コアは+2.5%（前回+2.4%）と、いずれも伸びが加速する見通しとなっている。NY原油期近は9月15日に106ドル台まで上昇した。その後は下げに転じたものの、原油高の影響は引き続き物価上昇圧力となっている。

15日の米9月小売売上高の事前予想は、総合が前月比+0.3%（前回+1.2%）、自動車を除くが前月比+0.4%（前回+1.4%）となっている。

原油高によるインフレ警戒感は根強い。米10年債利回りは7日に一時5.36%台に乗せて2002年以来的の水準まで上昇する局面も見られた。こうした点からドルは堅調な動きが見込まれる。一方で、日銀の利上げ継続への積極的な姿勢が見られず、円売り圧力も根強いものの、介入警戒感がドル円の上値を抑えている。こうした中、ドル円はレンジ相場が続くとみられる。目先の予想レンジは156.00～160.50円。

【ユーロドルやポンドドルは売り一服も上値の重い展開か】

ユーロドルはドルの堅調さやフランスの財政懸念などを背景に下落トレンドが続いている。7日には1.12ドルを割り込んだ。1.12ドル割れの水準では売りが一服して、安値圏でのみみ合いとなっている。ただ、積極的にユーロを買う動きは乏しく、安値圏でのみみ合いを経て一段と下落する展開が見込まれる。目先の予想レンジは1.050～1.130ドル。

ポンドドルは1.31ドル台後半～1.32ドル台後半で推移している。英国の10

年債利回りは5.48%台で米国の5.22%台と比べて高水準にある。ドルは堅調ながらもポンドドルは横ばいで推移するなど、一方的な下落局面は一服している。こうした中、ポンドドルは安値圏でのみ合いが続くこととなりそうだ。目先の予想レンジは1.3000～1.3300ドル。

今後の日米以外の経済指標やイベントとしては、13日の独9月消費者物価指数（CPI）確報値、14日の中国9月消費者物価指数（CPI）、中国9月生産者物価指数（PPI）、中国9月貿易収支、15日の豪9月雇用統計、英8月鉱工業生産指数、英8月製造業生産指数、英8月貿易収支、スイス9月生産者輸入価格指数、ユーロ圏8月鉱工業生産指数、16日のユーロ圏8月貿易収支、ユーロ圏9月消費者物価指数（CPI）確報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。